

青銅の祭壇の上で焼かれる五つのささげ物

ささげ物の名前	対 神	ささげ物の内容	神の取り分	祭司・人の取り分	血の取り扱い
全焼のいけにえ (燔祭) 「オーラー」 עֹלָה	自主的	<ul style="list-style-type: none"> ●傷のない若い雄牛、雄の子羊、雄やぎ、貧者は山鳩、家鳩。●牛の頭に按手した後に奉獻者が屠る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●皮を除くすべての部分を完全に焼き尽くす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●祭司は皮のみ得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●祭壇の<u>回りに</u>注ぎかける。
穀物のささげ物 (素祭) 「ミンハー」 מִנְחָה	自主的	<ul style="list-style-type: none"> ●①上等の小麦粉、それに油と乳香を添える。②輪型のパン③種の入らない薄焼き煎餅に油を塗ったもの。これらを全焼のいけにえと共にささげる。●すべて塩を入れるか、塩を添える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●①②③のささげ物から一握りを取って、それを「記念の部分」として祭壇で焼く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●残りの分はすべて祭司とその子らのもものとなる。 	—
和解のいけにえ (酬恩祭) 「シェラーミーム」 שְׁלָמִים	自主的	<ul style="list-style-type: none"> ●「全焼のいけにえ」と同様に、傷のない牛。牛に按手してから奉獻者が屠る。●「牛」の場合、雄でも雌でもかまわない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての脂肪と二つの腎臓と小葉。 	<ul style="list-style-type: none"> ●残った肉と内臓は、祭司とその家族と奉獻者とが共に分かち合う。動物の皮は奉獻者に与えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●祭壇の<u>回りに</u>注ぎかける。
罪のためのいけにえ (罪祭) 「ハッタート」 חֲטָאת	強制的	<ul style="list-style-type: none"> ●奉獻者の身分によってささげものが異なる。大祭司と全会衆の場合は傷のない若い雄牛。「上に立つ者」の場合は雄やぎ。一般の個人の場合は「雌やぎ」か「雌羊」。 ●他の皮、頭と足、肉、内臓と汚物のすべては宿営の外のきよい所で、すなわち、灰捨て場で焼く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●雄牛の脂肪を全部、祭壇の上で焼く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●残りは贖いをした祭司のものとなり、奉獻者は罪が赦される。 	<ul style="list-style-type: none"> ●血は「会見の場所」である聖所に持って入り、垂れ幕の前で血を七たび振りかける。また香壇の四隅の角と祭壇の四隅の角に血をつける。●残りの血は祭壇の土台の下に注ぐ。
罪過のためのいけにえ (愆祭) 「アーシアーム」 אֲשָׁמָה	強制的	<ul style="list-style-type: none"> ●「罪のためのいけにえ」の一変種とされ、償いと賠償を伴うため「賠償の献げ物」とも言う。●傷のない雄羊、返済とその賠償の1/5(20%)を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●雄羊の脂肪を全部、祭壇の上で焼く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●残りは贖いをした祭司のものとなり、奉獻者は罪が赦される。 	<ul style="list-style-type: none"> ●祭壇の<u>回りに</u>注ぎかける。